

19. 商品性の高い「おおいた冠地どり」の生産を支える技術の開発

農林水産研究指導センター畜産研究部
○後藤良恵・阿南加治男・林佑亮・志村英明

【はじめに】

「おおいた冠地どり」は、平均出荷体重が生産管理マニュアルの標準体重より0.3kg軽く、育成率は3%低く課題となっている。このことから、開発後10年が経過した原種鶏の血液更新の必要性がでてきた。また、初期発育の遅延の報告が生産者からもあり、高タンパク等の飼料給与面からの発育改善を検討したので報告する。

【取り組み内容】

1：原種鶏の改良

(1) 三元雄系統の再造成

白色ロック981系統の種卵導入 (H28年4月～H29年3月)

(2) 雌系ロードアイランドレッドの血液更新

ロードアイランドレッドの種卵導入(H30年5月～H31年1月)

2：飼養管理技術の改善

高タンパク飼料給与試験

(1) 肥育前期 (0～21日齢) に給与する飼料の栄養水準を変えて肥育試験を実施

タンパク質含量 対照区：22%、試験区：23%

(2) 肥育羽数 対照区、試験区 各♂10羽♀10羽計20羽

(3) 試験期間 H30. 4. 11～7. 10、H30. 8. 1～10. 30 (各90日間)

(4) 調査項目 体重、飼料消費量

3：素雛供給の改善

優良素雛を供給するため大きさ、羽毛色等の選別を共有化する必要がでてきたことから、「素雛選別マニュアル」の作成(H28年9月)更新(H30年8月、H31年1月)

を行った。

【結果および考察】

原種系の改良は、三元雄において175日齢平均体重2,791gから改良後3,740gと大きく増加した。

素雛選別マニュアルの策定、更新により種鶏場と研究部で選抜基準を共有化し、優良雛を生産者に供給できるようになった。

これらのとりくみの結果、冠地鶏の平均出荷体重は2.9kgから3.2kgに増加した。また、育成率も93%から96.5%に増加した。

高タンパク飼料試験では、21日齢の体重が雌雄で有意に重く、初期発育の改善が見られたため、更に高タンパク飼料の現地実証試験を行い、効果を検証のうえ農家へ普及を図りたい。